

## 自然と文化が融合した地



私はニンビンのホテルでバイクタクシーを雇い、町の中心から約7キロ離れたチャンアンを目指した。5分ほど走ると風景は水田に変わり、すり鉢をひっくり返したような巨大な石灰岩の山々が現れ始めた。「この地域ははるか昔、海の底だったそうです。それが次第に隆起し、風雨に侵食されて、今のような風景が作られたそうですよ」と運転手兼ガイドのナムさんが語る。

到着したチャンアンは、ビクターセンターなどの施設が整備され、一大観光地になっていた。小型のボートに乗り、水墨画のような風景の中をのんびりとクルーズできる。同国の世界自然遺産として有名な「ハロン湾」にも匹敵するような見事な景色が広がっている。

一帯には約50の洞窟があるといい、クルーズではそのうち9つほどを巡ることができる。洞窟内は狭く、鍾乳石が頭上ギリギリに迫るが、そこを通り抜けるのがとてもスリリングで面白い。自然が作り上げた鍾乳石の造形は美しく、乗客はしきりにカメラのシャッターを押している。洞窟を抜けた後、目の前に広がる石灰岩の絶景もまた見応えがある。ナムさんによれば、この地域にある断崖の洞窟では、約3万年前の人類の生活跡も見つかっているという。

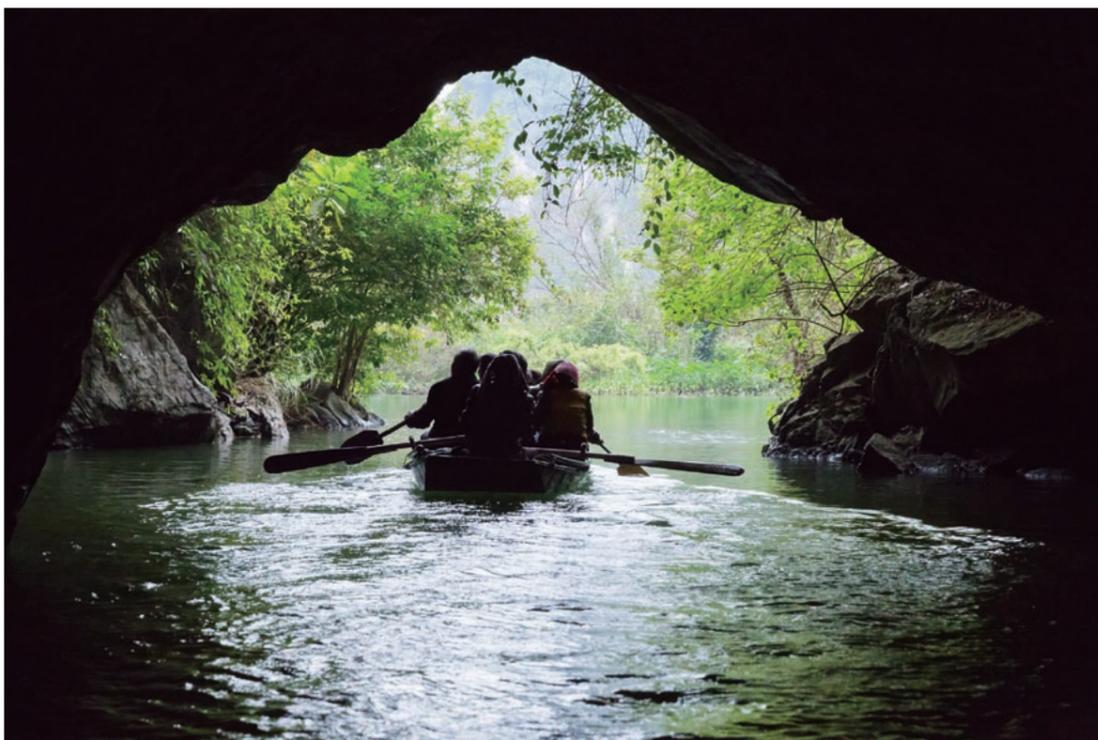
地球ギャラリー vol.99



船頭はほとんどが地元の女性だ。寺院へ参拝する乗客を待つ間、仲間とおしゃべりしながら、しばし体を休める



「タワーカルスト」と呼ばれる石灰岩の奇岩・奇峰が続く。一帯では貴重な動植物も数多く見られるという



洞窟の長さは10メートルから300メートル以上とさまざま。中には酒つぼが貯蔵されているところもある

ベトナムの首都ハノイから車で南へ2時間。紅河デルタに位置するニンビンには、人口約16万人と小規模な都市だが、韓国の自動車メーカーなどが進出し、活気にあふれている。

この町の郊外にある「チャンアン景観複合体」は、2014年にベトナムで初めてユネスコの世界複合遺産に登録された。面積は6172ヘクタールで、貴重な名勝と史跡が点在する。



洞窟内の照明は最小限で、薄暗い。船頭は、鍾乳石にぶつからないよう巧みな櫂さばきでボートを進める

次に私はホアルーを訪ねた。968年、ティエン・ティエン・ホアンがベトナムで初めて国家を統一した古都である。タンロン（現在のハノイ）に遷都する11世紀初頭まで、王朝の都として栄えた。現在ここに残っているのは、「ティエン朝」を興したティエン・ティエン・ホアンと、次の「前レー朝」の王であるレー・ダイ・ハインを祭る廟と呼ばれる建物だ。

最後にナムさんは、仏教寺院の「バイティン寺」に案内してくれた。世界遺産のエリアからは外れているが、東南アジア最大という敷地に、3つの巨大な寺院が建っている。圧巻なのは、回廊に立ち並ぶ羅漢像だ。その数は500体以上。回廊を通り抜け、ようやくたどり着いた釈迦仏殿には、高さ約10メートル、重さ100トンの金色に輝く釈迦像が安置されていた。これもベトナム最大といわれる。何もかもが想像を超えたスケールを持つ仏教寺院だ。

他にも、チャンアンと並ぶ景勝地のタムコックや、仏僧が水墨画のような景観にひかれて建てたという洞窟寺院の「ビッグドン」、ベトナムとヨーロッパの建築様式が融合した木造・石造教会「ファッジエム教会」など、ニンビン周辺には見るべきものがたくさんある。

チャンアンでは今年、米ハリウッド映画『キングコング』シリーズの撮影が行われ、大きな話題となった。来年には映画の公開が予定されており、この地域を訪れる旅行者はさらに増えそう。



今から約1,000年前に都が置かれたホアルー。ティエン・ティエン・ホアン廟の入口には歴史を感じさせる門が立つ



廟に祭られたティエン・ティエン・ホアンの像。近くにそびえる山の頂上付近には、彼のものといわれる墓もある

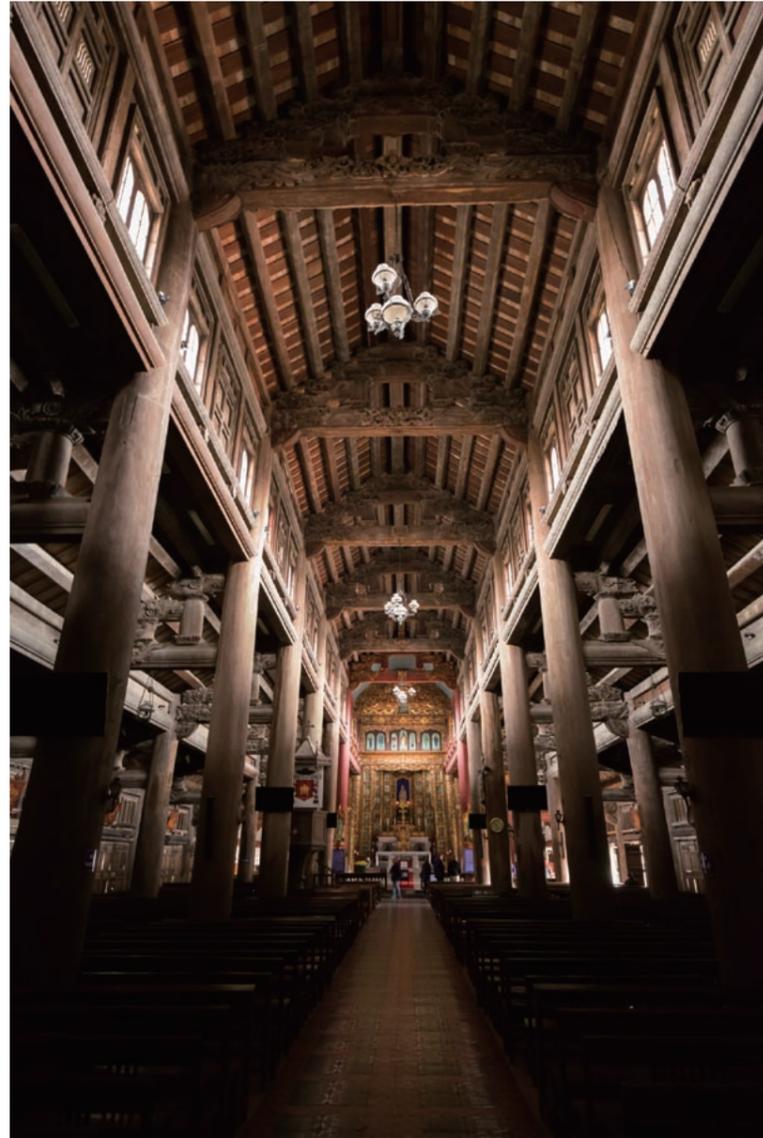


テト（旧正月）の時期、ティエン・ティエン・ホアン廟には多くのベトナム人が訪れ、手を合わせていた

石灰岩の山に築かれたビッグドン。3つある寺院のうちの1つは、洞窟を利用して建てられている



バイティン寺の回廊にずらりと並ぶ五百羅漢像。参拝者は羅漢像に触れながら祈り、回廊を進んでいく



19世紀に建てられたファッジエム教会の大聖堂。ふだんに木材が使われた内部は、荘厳な雰囲気が漂う

堀内 孝 (ほりうち たかし)

1963年宮城県生まれ。株式会社PPS通信社を経て、フリーの写真家になる。90年よりアフリカのマダガスカルを訪れ、人々の暮らしや独自の進化を遂げた動植物を徹底取材。97年からは、ベトナム、ラオス、タイなどの東南アジアを訪れ、少数民族の暮らしと手仕事も撮影している。著書に『マダガスカルへ写真を撮りに行く』（港の人）など。



人々の憩いの友といえば

## ベトナムコーヒー



ハノイで人気のカフェ。さまざまな種類のコーヒーを味わえる

ベトナムの街を歩くと、至る所でカフェを見掛ける。人々が思い思いに過ごしながらかんんでいるのはカフェ・スア・ダー（アイスコーヒー）。コンデンスミルク入りのグラスの上にアルミ製のドリッパーを載せ、お湯を注ぐ。コーヒーがポタポタと滴り落ちる時間を楽しむのが、ベトナムのカフェタイムの特徴だ。コーヒーがすべて抽出されたらコンデンスミルクとよく混ぜ、氷入りのグラスに一気に注ぐ。路上のカフェではこの典型的な入れ方が多いが、近年はおしゃれなカフェも増え、エッグコーヒーや、ココナツコーヒー、ヨーグルトコーヒーといった、日本人にとっては珍しい飲み方も人気を集めている。

ベトナムはブラジルに次ぐコーヒー豆の生産国。しかし、日本でベトナム産のコーヒー豆をあまり見掛けないのは、その多くが缶コーヒーやインスタントコーヒーに加工される「ロブスタ種」だからだ。苦みが強いので、ベトナムでは砂糖やコンデンスミルクをたっぷり入れて飲むのが主流だという。ベトナムのお昼休みは基本的に1時間半。働く人々は昼食を済ませた後、のんびりとカフェタイムを満喫している。



伝統的なコーヒーの入れ方が楽しめるカフェ・スア・ダー

取材協力・写真提供：監物もに加

地球ギャラリー

## ベトナムの文化を知ろう!

「本格的なベトナム料理を日本人に提供したい」と、昨年オープンした「ワンアン ホア セン」。店主のブイ・グエン・ビツ・ガアンさんが教えてくれたのは、コメの麺（フォー）に鶏肉（ガー）を載せた「フォー・ガー」だ。今回紹介するレシピはベトナム北部の食べ方で、南部ではさらに生のレタスやモヤシの他、バジルなどのハーブをたっぷり載せて、レモン汁や甘みそ、チリソースなどをかけていただく。

南部の町ベンチャー出身のビツ・ガアンさんによると、仕事を持つ女性が多いベトナムでは、朝食は外で済ませるのが定番だという。野菜たっぷり値段の安いフォーは、大衆食堂ではおなじみのメニューだ。

「ベトナム料理はスパイスをたくさん使います。スパイスは体の脂肪を取るといわれてるんですよ」。ベトナム女性のアオザイが似合う体形の秘密は、こんなところにあるのかもしれない。

### 【RECIPE】

#### ●材料(5人前)

鶏ガラ1kg／鶏モモ肉500g／タマネギ1個／ショウガ50g／八角1個／シナモン1本／フォー(乾麺)400g(ぬるま湯に2時間浸し戻しておく)／塩・砂糖各20g／魚醤大さじ1／小ネギ・パクチー各適量

- 1 鶏ガラを沸騰した湯でさっとゆで、アクの出た湯を捨てる。新たに2リットルの湯を沸かし、鶏ガラをさらにゆでる。
- 2 皮をむいたタマネギと皮付きのショウガに焼き目を付け、八角、シナモンと共に①に加え、3時間ほど弱火で煮る。
- 3 ②からスープ以外を取り出し、そこに塩、砂糖、魚醤を加えて20分間煮る。
- 4 別の鍋に湯を沸かし、塩少々(分量外)を入れて鶏モモ肉をゆでる。火が通ったらスライスしておく。
- 5 別の鍋に湯を沸かし、戻しておいたフォーを2分間ゆで、水気をよく切って器に盛る。その上に④を載せ、③のスープをかける。好みで小口切りにした小ネギとパクチーをトッピングして出来上がり。

## ベトナムの大衆料理といえば

### フォー・ガー



### 【SHOP INFORMATION】

#### ワンアン ホア セン

〒272-0023  
千葉県市川市南八幡4-6-4  
庄や第五ビル2F  
Tel:047-712-5636

営業時間：[ランチ]11時半～15時

[ティータイム]15時～18時(土・日・祝日)

[ディナー]18時～23時

※火曜定休

